

科目名	造形芸術演習 I C	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	工芸学科				

授業目的と到達目標	
<p>現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。</p> <p>表現者は社会とともにあり社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験まで表現者の制作意欲は揺さぶられる。</p> <p>その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。</p>	
授業概要	
<p>課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど制作思考継続が必要である。</p> <p>また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。</p> <p>作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>工芸史美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接にある。そのため身の回りにある社会的関心ごととは注意し調べておく必要がある。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題 3 つの提出。	課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
造形活動の経験を生かす。	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	<p>課題1 感覚の交換</p> <p>音楽を造形にする。</p> <p>自身が、詩がない音楽を選択する。</p> <p>選択した音楽を○△□の抽象的形態と色彩を使用し、レリーフ作品を制作する。。</p> <p>最初配布した素材を使用し、仮のレリーフ形態を制作しイメージデッサンを制作する。</p>
2	<p>課題1</p> <p>イメージデッサンの確認ができれば素材に着色をする。</p> <p>絵具は水彩が適切だと考えるが自身が選んだものを使用してもよい。</p>
3	<p>課題1</p> <p>着色の作業とともに、レリーフ化するため部位の接着を行う。</p> <p>接着には木工ボンドが適切かと思いますが自身で選んでもよい。</p>
4	<p>課題1</p> <p>作業を続ける。</p> <p>レリーフの特性を考え正面からだけでなく上下左右からも作品を確認する。</p>
5	<p>課題1</p> <p>対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。</p> <p>採点終了学生から次の課題に進む。</p>
6	<p>課題2 パーソナリティーの作品化</p> <p>自身の人格、人柄、人間性など客観的に分析し多様な素材で表現する。</p>
7	<p>課題2</p> <p>自身の分析とイメージデッサンを制作をする。</p>
8	<p>課題2</p> <p>各自で素材や技法を選択し考察する。</p>



科目名	造形芸術演習 I C	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	工芸学科				

授業目的と到達目標	
<p>現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。</p> <p>表現者は社会とともにあり社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験であろうと表現者の制作意欲は揺さぶられる。</p> <p>その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。</p>	
授業概要	
<p>課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど制作思考継続が必要である。</p> <p>また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。</p> <p>作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>工芸史美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接にある。そのため身の回りにある社会的関心ごととは注意し調べておく必要がある。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
課題 3 つの提出。	課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
造形活動の経験を生かす。	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	<p>課題1 感覚の交換</p> <p>音楽を造形にする。</p> <p>自身が、詩がない音楽を選択する。</p> <p>選択した音楽を○△□の抽象的形態と色彩を使用し、レリーフ作品を制作する。。</p> <p>最初配布した素材を使用し、仮のレリーフ形態を制作しイメージデッサンを制作する。</p>
2	<p>課題1</p> <p>イメージデッサンの確認ができれば素材に着色をする。</p> <p>絵具は水彩が適切だと考えるが自身が選んだものを使用してもよい。</p>
3	<p>課題1</p> <p>着色の作業とともに、レリーフ化するため部位の接着を行う。</p> <p>接着には木工ボンドが適切かと思いますが自身で選んでもよい。</p>
4	<p>課題1</p> <p>作業を続ける。</p> <p>レリーフの特性を考え正面からだけでなく上下左右からも作品を確認する。</p>
5	<p>課題1</p> <p>対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。</p> <p>採点終了学生から次の課題に進む。</p>
6	<p>課題2 パーソナリティーの作品化</p> <p>自身の人格、人柄、人間性など客観的に分析し多様な素材で表現する。</p>
7	<p>課題2</p> <p>自身の分析とイメージデッサンを制作をする。</p>
8	<p>課題2</p> <p>各自で素材や技法を選択し考察する。</p>



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標	
<p>アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。</p> <p>感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。</p> <p>個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。</p> <p>アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。</p> <p>制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。</p> <p>自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、様々な表現に挑戦する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>準備用具の忘れ物に注意すること。</p> <p>授業に積極的に関わりを持つ事。</p> <p>自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。</p> <p>美術館や博物館に行き、実物を見る。</p> <p>学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題のアイデアと完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。
2	課題1 紙のレリーフと色彩表現 ケント紙で制作したレリーフにアクリル絵具などを用い、実験的体験を通して色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験
3	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第2回 レリーフ制作
4	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第3回 レリーフ制作と着彩
5	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第4回 着彩とレイアウト 完成
6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	高垣 リミ				
クラス名					

授業目的と到達目標	
立体物表現のための視点と技法を研究し、修得する。 造形表現に用いる素材の可能性を探り、広げる。	
授業概要	
合理的で無駄を省く資本主義中心である現代社会において 心の中の庭をそっと耕すようなこの行為が専門分野を問わず ものづくりの礎であることは周知の事実である。 ヒトがモノをつくる過程を重視し、目の前のモノにしっかりと向き合い 時間を共有してもらいたい。 様々な課題とメディアに出会い、制作中に次々と起こるハプニングを楽しみ乗り越えてもらうことを期待している。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
造形領域に興味を持つこと 授業に積極的にかかわること 制作に真摯に取り組むこと	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
作品提出の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する	100 %

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
彫刻家	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	今後の課題説明
2	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする。
3	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする
4	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする
5	課題①合評 次課題説明
6	課題②平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする) 課題①で制作した27個の立方体を平面のパズルとして使用できるように紙に描く。 (対象年齢7歳以上) 立体と平面の間を何度も思考が往復することで柔軟な立体感覚を養う
7	課題②平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする) 課題①で制作した27個の立方体を平面のパズルとして使用できるように紙に描く。 (対象年齢7歳以上) 立体と平面の間を何度も思考が往復することで柔軟な立体感覚を養う
8	課題②平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする) 課題①で制作した27個の立方体を平面のパズルとして使用できるように紙に描く。 (対象年齢7歳以上) 立体と平面の間を何度も思考が往復することで柔軟な立体感覚を養う
9	パズルの組み立てを動画にして提出する。



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標	
<p>アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。</p> <p>感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。</p> <p>個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。</p> <p>アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。</p> <p>制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。</p> <p>自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、様々な表現に挑戦する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>準備用具の忘れ物に注意すること。</p> <p>授業に積極的に関わりを持つ事。</p> <p>自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。</p> <p>美術館や博物館に行き、実物を見る。</p> <p>学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題のアイデアと完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。
2	課題1 紙のレリーフと色彩表現 ケント紙で制作したレリーフにアクリル絵具などを用い、実験的体験を通して色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験
3	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第2回 レリーフ制作
4	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第3回 レリーフ制作と着彩
5	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第4回 着彩とレイアウト 完成
6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標	
<p>アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。</p> <p>感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。</p> <p>個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。</p> <p>アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。</p> <p>制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。</p> <p>自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、様々な表現に挑戦する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>準備用具の忘れ物に注意すること。</p> <p>授業に積極的に関わりを持つ事。</p> <p>自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。</p> <p>美術館や博物館に行き、実物を見る。</p> <p>学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題のアイデアと完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。
2	課題1 紙のレリーフと色彩表現 ケント紙で制作したレリーフにアクリル絵具などを用い、実験的体験を通して色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験
3	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第2回 レリーフ制作
4	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第3回 レリーフ制作と着彩
5	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第4回 着彩とレイアウト 完成
6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	高垣 リミ				
クラス名					

授業目的と到達目標	
立体的表現のための視点と技法を研究し、修得する。 造形表現に用いる素材の可能性を探り、広げる。	
授業概要	
<p>手を見て 心でつくること</p> <p>合理的で無駄を省く資本主義中心である現代社会において 心の中の庭をそっと耕すようなこの行為が専門分野を問わず ものづくりの礎であることは周知の事実である。</p> <p>ヒトがモノをつくる過程を重視し、目の前のモノにしっかりと向き合い 時間を共有してもらいたい。</p> <p>様々な課題とメディアに出会い、制作中に次々と起こるハプニングを楽しみ乗り越えてもらうことを期待している。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>造形領域に興味を持つこと</p> <p>授業に積極的にかかわること</p> <p>制作に真摯に取り組むこと</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
作品提出の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100%

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
彫刻家

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	今後の課題説明
2	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする。
3	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする。
4	課題①真っ白な正六面体(3センチ×3センチ×3センチ)の立方体を27個つくる。 素材は紙、粘土、木などを使用する。 組み上げて9センチ×9センチ×9センチの美しい立方体になるようにする。
5	課題①合評 次課題説明
6	課題② 平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする) 課題①で制作した27個の立方体を平面のパズルとして使用できるように紙に描く。 (対象年齢7歳以上) 立体と平面の間を何度も思考が往復することで柔軟な立体感覚を養う
7	課題② 平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする) 課題①で制作した27個の立方体を平面のパズルとして使用できるように紙に描く。 (対象年齢7歳以上) 立体と平面の間を何度も思考が往復することで柔軟な立体感覚を養う
8	課題② 平面で作る立体パズル制作(描いた27個の立方体を組み合わせ1つの立方体にする)



科目名	造形芸術演習 I D	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標	
<p>アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。</p> <p>感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。</p> <p>個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。</p> <p>アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。</p> <p>制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。</p> <p>自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、様々な表現に挑戦する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>準備用具の忘れ物に注意すること。</p> <p>授業に積極的に関わりを持つ事。</p> <p>自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。</p> <p>美術館や博物館に行き、実物を見る。</p> <p>学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題のアイデアと完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。
教員実務経験

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。
2	課題1 紙のレリーフと色彩表現 ケント紙で制作したレリーフにアクリル絵具などを用い、実験的体験を通して色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験
3	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第2回 レリーフ制作
4	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第3回 レリーフ制作と着彩
5	課題1 紙のレリーフと色彩表現 第4回 着彩とレイアウト 完成
6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥



科目名	造形芸術演習 I F	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	美術学科				

授業目的と到達目標	
<p>現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。</p> <p>表現者は社会とともにありそして社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験まで表現者の制作意欲は揺さぶられる。</p> <p>その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。</p>	
授業概要	
<p>課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど思考継続が必要である。</p> <p>また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。</p> <p>作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接。そのため身の回りにある社会的関心ごとは注意し調べておく必要もある。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題 3 つの提出。	課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
造形活動の経験を生かす。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題1 パーソナリティーの作品化 自身の人格、人柄、人間性、好きなものや嫌いなもの等自身を成り立たせているものを確認し造形化する。
2	課題1 自身の分析、そのイメージをデッサンにする。 各自で素材や技法を選択し考察する。
3	課題1 作業を持続させる。質問等に対応する。
4	課題1 作業を持続させる。質問に対応する。
5	課題1 対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。 採点終了学生から次の課題に進む。
6	課題2 AI で制作された作品の模倣あるいは再制作をする。 AI 領域から一定のキーワードで選ばれた作品をプリント(A3)し模倣する。 模倣に使用する着色素材、基底材料は自身が選択する。 参考キーワード【Human Machine Painting】【Nature Artificial Painting】
7	課題2 各自この課題に対し色彩材料や基底材を選択をして作業を進める。 作品の大きさは教員との相談によって決める。
8	課題2 制作を持続させる。質問等に対応する。
9	課題2 制作を持続させる。質問等に対応する。



科目名	造形芸術演習 I F	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	美術学科				

授業目的と到達目標	
<p>現代のアートシーンの意味と意義についての理解と制作実践ができるようにする。</p> <p>表現者は社会とともにありそして社会の一員でもある。身近な現実の体験から架空の疑似的体験であろうと表現者の制作意欲は揺さぶられる。</p> <p>その意欲が具体的制作に変換できるような思考と身体を用いられるようにできたらと考えている。</p>	
授業概要	
<p>課題テーマは基本 3 作品制作。1 作品課題に 5 回分の授業時間を想定している。授業時間以外にもイメージデッサンや素材選びなど思考継続が必要である。</p> <p>また、各自の制作スピードが異なるので自身が制作プランニングを予測し実行する必要がある。</p> <p>作品提出採点に関しては、制作学生と対話形式で互いに作品を鑑賞し言葉を交わし作品の理解を深める。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
美術史の大まかな理解は必要。社会の動向と作品のテーマ様式は密接。そのため身の回りにある社会的関心ごとは注意し調べておく必要もある。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題 3 つの提出。	課題 100 点満点で点数化する。その課題が 3 作品なので合計点を 3 で割り、その後欠席遅刻等の減点数を加味する。

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
造形活動の経験を生かす。	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題1 パーソナリティーの作品化 自身の人格、人柄、人間性、好きなものや嫌いなもの等自身を成り立たせているものを確認し造形化する。
2	課題1 自身の分析、そのイメージをデッサンにする。 各自で素材や技法を選択し考察する。
3	課題1 作業を持続させる。質問等に対応する。
4	課題1 作業を持続させる。質問に対応する。
5	課題1 対話的手法で作品鑑賞と採点を行う。 採点終了学生から次の課題に進む。
6	課題2 AI で制作された作品の模倣あるいは再制作をする。 AI 領域から一定のキーワードで選ばれた作品をプリント(A3)し模倣する。 模倣に使用する着色素材、基底材料は自身が選択する。 参考キーワード【Human Machine Painting】【Nature Artificial Painting】
7	課題2 各自この課題に対し色彩材料や基底材を選択をして作業を進める。 作品の大きさは教員との相談によって決める。
8	課題2 制作を持続させる。質問等に対応する。
9	課題2 制作を持続させる。質問等に対応する。



科目名	プロダクトデザイン演習【18以降生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 前期	形態	演習		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名	【18以降生対象】				

授業目的と到達目標	
クリエイターの活動において必要不可欠なデザイン基礎力の習得を目標とする。 工芸領域で活用できるデザインのルールやセオリーを学ぶ。	
授業概要	
対面授業。 スライドレクチャーやベーシックなデザイン演習、コンピューターを用いたレイアウト編集を行う。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
授業の冒頭に課題説明を行うので遅刻しないこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題に関する技術的到達度	70
受講態度	30

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	デザイン入門教室		
出版社名	SB クリエイティブ株式会社	著者名	坂本伸二
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL			
特記事項			
教員実務経験	陶磁器作家および陶磁器デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。		

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 教員紹介・授業概要の説明
2	スライドレクチャー デザインの基礎知識について
3	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる
4	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる
5	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる
6	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る
7	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る
8	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
9	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
10	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
11	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
12	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット



科目名	プロダクトデザイン演習【18以降生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	演習		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名	【18以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>クリエイターとして活動する上で必要なデザインスキルの習得を目標とします。幅広くデザインの知識を学びながら実践的なデザイントレーニングを行います。演習を通して工芸分野に応用できる撮影技術や画像処理技術、ビジュアルデザイン技術習得を目指します。</p>	
授業概要	
<p>レクチャーを中心としたデザイン基礎講座を行う。          パソコンによる画像処理ソフトの操作を学び、プロダクトデザインにおける的確なビジュアル表現の基本的知識を学ぶ。またクリエイターとして必須のセルフプロモーションメディア制作を行う。          デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
授業の冒頭に説明を行うので遅刻しないこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題に関する技術的到達度	50
課題に取り組む姿勢	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス (授業概要説明)
2	プロダクトデザインについて (スライドレクチャーを通してデザインの潮流や事例を知る)
3	撮影基礎講座 (基本的な撮影技術に関するレクチャー)
4	フォトショップ基礎 (画像処理一般について)
5	フォトショップ基礎 (画像処理一般について)
6	イラストレーター基礎 (文字入力、描画、レイアウト一般について)
7	イラストレーター基礎 (文字入力、描画、レイアウト一般について)
8	プロモーションメディア制作1 (名刺制作を通してレイアウトの基本を学ぶ)
9	プロモーションメディア制作1 (名刺制作を通してレイアウトの基本を学ぶ)
10	プロモーションメディア制作2 (フライヤー制作を通してレイアウトの基本を学ぶ)
11	プロモーションメディア制作2 (フライヤー制作を通してレイアウトの基本を学ぶ)



科目名	金工実習 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	実習		
教員名	○足立 正毅、水野 年彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>授業目的:ガス型鑄造・蠟型鑄造技法における、それぞれの造形性と技法・技術の違いを理解する。</p> <p>到達目標:ガス型及び蠟型技法による鑄造2作品の制作。</p>	
授業概要	
<p>【対面授業】</p> <p>前期:第一課題「ガス型鑄造による作品制作」と、その展示。</p> <p>後期:第二課題「蠟型鑄造による作品制作」と、その展示。</p> <p>担当教員ともに授業課題の内容に即した作品制作研究等の実務経験を有する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>作品制作にあたって構想の段階から技法・素材・展示方法などを含め、十分な検討を行っておくこと。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出物	20
制作作品	80

教科書			
教科書1	参考資料配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
鑄金作家が指導にあたります。	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【対面】 「ガス型鑄造作品」課題説明、原形制作。
2	【対面】 原形制作。
3	【対面】 原形制作。
4	【対面】 原形制作。 鑄型制作。
5	【対面】 原形制作。 鑄型制作。
6	【対面】 鑄型制作。
7	【対面】 鑄型制作。
8	【対面】 鑄型制作。 鑄込み。
9	【対面】 鑄込み。
10	【対面】 鑄物仕上げ。
11	【対面】

	鑄物仕上げ。
12	【対面】 鑄物仕上げ。
13	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
14	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
15	【対面】 作品提出、合評。
16	【対面】 「蠟型鑄造作品」課題説明、作品資料配布。 蠟型原型材料作り。
17	【対面】 「蠟型鑄造作品」制作構想図提出、構想検討。 蠟型原型材料作り。
18	【対面】 「蠟型鑄造作品」構想検討。 蠟型原型材料作り。 蠟型原型制作。
19	【対面】 蠟型原型制作。
20	【対面】 蠟型原型制作。
21	【対面】 蠟型原型制作。 蠟型原型埋没。
22	【対面】 蠟型原型埋没。 鑄型焼成。
23	【対面】 蠟型原型埋没。 鑄型焼成。
24	【対面】 鑄込み。
25	【対面】 鑄込み。
26	【対面】 鑄物仕上げ。

27	【対面】 鋳物仕上げ。
28	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
29	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
30	【対面】 作品提出、合評。

科目名	金工実習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	佐藤 享弘、○長谷川 政弘				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>アセチレン溶接、MIG 溶接などの溶接機材の取り扱いを学び、溶接技術を習得する。安全でスムーズな溶接作業ができ、鉄素材の特性を理解する事を目標とする。</p> <p>ものと身体との関係に目を向け、そこから生まれる気づきから作品を構築できる力を養う。</p> <p>後期は展覧会での作品発表を前提とした作品を制作し、そこで得たものを4回生の制作につなげる。</p>	
授業概要	
<p>前期は「鉄課題」と「ジュエリー課題」の2課題を行う。</p> <p>「鉄課題」:アセチレンガスや電気溶接機を使って溶接、溶断の練習を行ったのち鉄板で来年の干支「辰(たつ)」を制作する。</p> <p>「ジュエリー課題」:身体とかかわる小立体を銅の板や線材を用いて制作する。</p> <p>後期は「環境と向き合う」をテーマに作品を制作する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>「鉄課題」: 鉄でつくられた彫刻作品、工芸作品を調べてパワーポイントで編集し授業内で発表してもらいます。5月にアセチレンガス技能講習修了証を取得してもらいます。完成作品はすべてポートフォリオを制作してもらいます。</p> <p>「ジュエリー課題」: ジュエリー作家の作品の中から「好きな作品」と「嫌いな作品」を各一点ずつ紹介し、その理由を述べてもらいます。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に取り組む姿勢	40
作品構想、完成作品	60

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	ジュエリー課題:「アフォーダンス入門-知性はどこに生まれるか」		
出版社名	講談社	著者名	佐々木正人
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<a href="http://masaab.sakura.ne.jp">http://masaab.sakura.ne.jp</a>
特記事項
ジュエリー課題:「TALENTE」「SCHMUCK」等の作品カタログが図書館に 収蔵されていますので参考にしてください。
教員実務経験
金属造形作家である教員とジュエリー作家の教員が経験を生かした指導を行う。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	A 班 B 班合同ガイダンス 学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション(オマージュ作家について)
2	鉄課題「辰(たつ)」 アセチレン溶断、エアープラズマー溶断の実技講習
3	アセチレン溶接、MIG 溶接の実技講習
4	干支制作:アイデア提出、紙による模型づくり
5	干支制作:溶断、切断
6	干支制作:成形(曲げ、叩きなど)溶接
7	干支制作:仕上げ→完成
8	ジュエリー課題「身体と関わる小立体」 ・課題説明 ・作品紹介
9	・制作実習 ・アイデアのチェック
10	・制作実習

11	▪制作実習
12	▪制作実習
13	▪制作実習 ▪仕上げ ▪写真撮影(装着された状態)
14	学外授業
15	「鉄課題」「ジュエリー課題」合同合評 後期課題の導入
16	後期課題「環境と向き合う」置かれる環境と作品について考える 教員によるレクチャーと学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション
17	学外講師による特別授業
18	アイデアと制作構想の発表1
19	アイデアと制作構想の発表2
20	作品制作1
21	作品制作2
22	作品制作3
23	作品制作4
24	作品進行状況の中間報告
25	作品制作5
26	作品制作6
27	作品制作7
28	作品制作8
29	画像パネル制作 大学内ギャラリー展示準備
30	「環境との対峙」大学内ギャラリーでの公開合評

科目名	陶器実習 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					

授業目的と到達目標	
手捻り、轆轤、石膏型成形など土に対する基本的な制作技法を習得する中で、素材の特性を理解し、その造形表現を研究する。またその中で技法の応用や組合せなどを模索し、幅広い視野で自己表現を探究する。	
授業概要	
陶芸の制作で最も大切なことは素材(粘土、釉薬、装飾材など)の特性を熟知することである。 そのためにまずは基本的な造形技法(手捻り、轆轤、石膏型成形)と装飾技法(削り、絵付け、釉薬)を広く体験し、結果の考察を繰り返すことで素材についての理解を深める。 また課題制作の中で、計画を立てることや制作途中の作品の管理方法についても学び、完成までの基本的な流れを理解することで自主的且つ意欲的な制作スタンスの獲得を目指す。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
日頃より様々なジャンルの展覧会等で実物の作品を鑑賞し、自作との考察を深めておくこと。 限られた時間で効率的に制作を進めることができるよう計画性を持って課題に取り組むこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
作品	60
制作姿勢	30
デザイン画、マケット等の提出物	10

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
[田中雅文 Official site, <a href="http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html">http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html</a> ]
特記事項
陶器実習 I (月曜日)、陶器実習 II (水曜日)、焼成実習 I (金曜日)は、同課題を通して連動し作品制作を進めていきます。
教員実務経験
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明・道具作り
2	道具作り
3	土練り(荒練り、菊練り)
4	手捻り成形による造形・テーマ「音楽」の制作 制作計画、個別面談
5	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
6	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
7	轆轤成形による湯呑・テーマ「連続模様」の制作 轆轤の基礎
8	轆轤の基礎・制作進行状況により、随時個別指導を行う
9	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
10	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
11	石膏型成形による皿・テーマ「生き物」の制作 原型制作
12	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
13	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
14	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
15	合評(課題提出)
16	石膏型による立体造形・テーマ「貝」の制作 制作計画、個別面談
17	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
18	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
19	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
20	轆轤成形による鉢・テーマ「草花文、吉祥文」の制作 制作計画、個別面談

21	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
22	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
23	轆轤による円筒を基本とした造形・テーマ「時間」の制作／制作計画、個別面談
24	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
25	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
26	手捻り成形による自由造形・テーマ「自由」の制作 制作計画、個別面談
27	成形・制作進行状況により、随時個別指導を行う
28	装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
29	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
30	合評(課題提出)

科目名	陶器実習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	西川 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標	
陶芸の基礎的な形態と装飾についての理解を深め、形態と装飾の融合とその可能性を探求する。	
授業概要	
<p>対面授業 陶芸において装飾は大切な要素である。作られた作品がより魅力的に加飾されなくてはならない。</p> <p>そのためには、筆描や化粧土によるかき落とし、象嵌、顔料による彩色、施釉など、文様と色彩のバランスを考察しながら授業をすすめていく。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>各課題には、アイデアスケッチ、デッサン、エスキース等を提出する事。</p> <p>夏季休暇中の研究、論文あり</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業に対する姿勢	30
課題作品の評価	70

教科書			
教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	なし		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	数多くの公募展入選と百貨店などで個展を開催し、様々な受賞歴を持つ経験豊富な陶芸家が、釉薬 焼成 粘土造形の技術を教え、表現の幅を広げるようにする。
教員実務経験	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明
2	道具作りの説明と種類
3	竹べら、カンナ、こて、トンボなど陶芸で使う道具を作る
4	手びねりによる作品制作をおこなう(曲線または、角のある形体)
5	主に紐づくりによる技術を習得する。
6	形完成後、下絵具(化粧土 白 黒 青などの色化粧)を使い掻き落としによる加飾を行う 赤合わせ土を使用し各5枚、2セット
7	化粧による加飾完了後、素焼き 施釉(透明釉)を行い 1230℃で本焼き(酸化焼成)を行う
8	轆轤成形による湯呑制作(信楽粘土)
9	大きさ直径 8 cm高さ 10 cm以内(焼成後)
10	シッタを使い高台づくり
11	乾燥し素焼きをおこなう
12	素焼き後、呉須、色呉須による加飾を行う
13	加飾後本焼きをし、完成
14	石膏型による皿の制作(テーマ生き物など)
15	信楽、赤土粘土を使うそれぞれ 5 点ずつ(10 点)
16	原形を粘土で作し、石膏を流して型を作る タタラ板(スライスした板状の粘土)を型に押し当てて成形する
17	大きさ長辺 21 cm程度深さ任意 乾燥後素焼きを行う
18	加飾を行う、呉須、アマコ絵具 4 色使用
19	石膏型による立体造形制作(テーマ貝など)
20	石膏型制作(合わせ型)抜け勾配など石膏技術の習得 2~3面割にする

21	粘土で原形を作り、石膏で型をとる。 それを元に、赤、信楽粘土でそれぞれ4点ずつ制作する 大きさ20cm <sup>3</sup> 程度(容積換算)
22	素焼き、施釉、本焼きののち完成 釉薬は材料演習で実験したものを使用、本焼きして完成
23	轆轤によるボール制作(5組2セット)直径15cm、形状にあう深さ(焼成後)
24	素焼き後、加飾を行う(呉須、色呉須使用) 施釉、本焼き(酸化、還元焼成)
25	轆轤による円筒を基本とした造形 轆轤技術の向上を目指す。3kgの粘土で直径15cm、高さ30cmの円筒をつくる
26	円筒が出来た者は、胴を膨らせて壺のような形態のものに挑戦する 素焼きの後、加飾、施釉、本焼き(酸化、還元)完成
27	手びねりによる自由造形制作 テーマは各自、自ら考える
28	粘土、釉薬、加飾それぞれ自ら選ぶ
29	大きさ、焼成後30cm <sup>3</sup> 程度(容積換算)
30	加飾終了後、乾燥、素焼き、本焼きを行う。酸化、還元焼成の理解を深める

科目名	ガラス工芸実習 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>実際に使うことを考慮したテーブルウェア、器などをデザインし制作することで発想とデザイン能力を養い、同時に吹きガラス技法のさらなる技術習得を目指します。作品制作の前にコンセプトボードを制作し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いプレゼン能力の向上も目指します。</p>	
授業概要	
<p>対面授業 アイディアスケッチに基づくディスカッション、プレゼンテーション、制作技法デモ、制作実習、講評会の順序で授業を基本的に進めます。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する事。 ハイヒールでの制作は禁止します。 教員、助手の指示に従い安全な作業を心がけてください。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
制作作品	50
プレゼンテーション	50

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
ガラス工芸作家 ガラス工房経営	

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「自分のタンブラー」の課題説明、球体の制作デモ
2	アイディアスケッチ提出／面談 制作実習
3	面談／デモ 制作実習
4	面談／デモ 制作実習
5	パワーポイントによる作品プレゼンテーション／ボード提出 講評会
6	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
7	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
8	「自分の花器」の課題説明、制作デモ タンブラー制作実技試験
9	アイディアスケッチ提出／面談 タンブラー制作実技試験
10	面談／デモ タンブラー制作実技試験
11	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会 タンブラー制作実技試験
12	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
13	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
14	花器制作実習

15	前期講評会
16	「飲器と食器」課題説明 制作デモ 制作実習
17	アイデアスケッチ提出／面談 制作実技試験
18	面談／デモ 制作実習
19	面談／デモ 制作実習
20	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
21	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
22	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
23	制作実習
24	「自分のテーブル」課題説明 制作デモ 制作実習
25	面談／デモ 制作実習
26	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
27	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
28	制作実習、各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ
29	制作実習
30	講評会

科目名	ガラス工芸実習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>前期／型作り、ホットキャスト、ホットワーク、コールドワーク技法をさらに習得し、立体物による制作コンセプト表現を学びます。</p> <p>後期／グループ展のための複数の作品制作を通し各々の制作スタイルを模索すると同時に、コンセプトを作品で表現することの経験を深め、卒業制作の前段階の準備をする。</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>前期／ホットキャスト、吹きガラス、コールドワーク技法を活用し、課題に沿って立体表現について学習します。</p> <p>後期／様々な技法を活用し、各々の学生の制作コンセプトに基づいて数展の作品を制作し、後期末にグループ展を行います。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する。</p> <p>ハイヒールでの作業は禁止します。</p> <p>教員及び助手の指示に従い安全に作業を行いましょう。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
制作作品	70
プレゼンテーション	30

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明「コンテナー」 サンドキャスト、水砂キャストの技法解説とデモ
2	アイデアスケッチ提出／面談 モールドミックスキャストの技法説明とデモ
3	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 モールドミックスキャストの技法説明とデモ
4	水ガラスキャスト技法解説とデモ
5	ビレットキャスト技法の技法解説とデモ 面談、制作実習
6	面談、制作実習
7	面談、制作実習
8	課題説明「見せ場」
9	アイデアスケッチ提出／面談
10	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 面談、制作実習
11	面談、制作実習
12	面談、制作実習
13	面談、制作実習
14	制作実習
15	講評会
16	後期課題説明／グループ展の開催について

17	アイディアスケッチを通しての面談
18	アイディアスケッチを通しての面談
19	プレゼンテーションの為の資料提出／面談
20	制作プレゼンテーション／講評
21	制作実習／制作アドバイス
22	制作実習／制作アドバイス
23	制作実習／制作アドバイス
24	制作実習／制作アドバイス
25	制作実習／制作アドバイス
26	制作実習
27	制作実習
28	制作実習
29	講評会
30	作品の写真撮影指導

科目名	染織表現実習	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	○竹垣 恵子、舘 正明				
クラス名					

授業目的と到達目標	
主に送りの基礎と1枚型での表現を学び、型技法による各自の表現力を養う(竹垣) ろう染めによる表現方法を学び、技法の理解と技術の習得、及びそれらの自己表現への反映を目指す(舘)	
授業概要	
スケッチをデザイン化し、型染めに適したプランニングを行い自己の世界を展開する(竹垣) スケッチ、下絵、染色と三段階のプロセスを踏むことで、スケッチを作品へと昇華させ、絵画的なろう染め作品を制作する(舘)	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
授業時間において指示された準備物及び資料等は必ず持参すること。実習に適した服装で出席すること	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出作品	80
授業の取り組みへの姿勢	20

教科書			
教科書1	適宜プリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
(竹垣)染織による作品制作で活動する作家が担当する。(館)ろう染めによる作品制作で活動する作家が担当する。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業全体の説明 ろう染め作品についての説明 第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 色草稿、原寸草稿
2	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 トレース、基本的な制作工程の説明、染色工程開始
3	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 アイデアスケッチ
4	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評 第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 色草稿
5	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 原寸草稿
6	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 トレース、染色工程開始
7	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 アイデアスケッチ
8	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作

	<p>染色工程</p> <p>ろう置き、染色の繰り返し</p> <p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>色草稿</p>
9	<p>第2課題 写真を基礎とするろう染め制作</p> <p>脱ろうソーピング・合評</p> <p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>原寸草稿</p>
10	<p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>トレース・染色工程開始</p>
11	<p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>染色工程</p> <p>ろう置き、染色の繰り返し</p>
12	<p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>染色工程</p> <p>ろう置き、染色の繰り返し</p>
13	<p>第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作</p> <p>染色工程</p> <p>脱ろうソーピング</p>
14	表装 パネル張り
15	合評
16	<p>第1課題「植物染料による和紙染め」</p> <p>植物染料の説明</p> <p>植物染料の抽出</p> <p>媒染材の準備</p> <p>プランニング(型紙・全体構成)</p>
17	<p>型彫り</p> <p>糊づくり</p> <p>糊置き</p> <p>豆汁引き</p>
18	<p>染色</p> <p>媒染発色</p> <p>染色</p>
19	<p>蒸し</p> <p>糊落とし</p>
20	和紙の裏打ち
21	<p>第2課題「1枚型」(黒・色差し)の課題説明</p> <p>プランニング</p> <p>型紙下絵作成</p>
22	型彫り

	糊置き
23	黒 色差し フィキサー処理 ソーピング
24	各色色差し
25	各色色差し フィキサー処理 ソーピング
26	第3課題 「1 枚型」(防染糊)の説明 モチーフスケッチ プランニング
27	型彫り 糊置き
28	色差し
29	色差し 蒸しによる後処理 糊落とし
30	合評

科目名	テキスタイルアート実習 I	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	4
授業期間	2023 年度 通年	形態	実習		
教員名	岸田 めぐみ				
クラス名					

授業目的と到達目標	
織物制作に必要な基本的な知識や技術を習得することを目的とする。 織物制作を通して織布の構造や素材ごとの性質を知り、個々人の作品制作で表現の幅を広げられることを目標とする。	
授業概要	
織りの工程を理解するために、平織・組織織・綴織・カード織・拵織等の技法を用いて制作課題に取り組む。様々な素材(植物繊維や動物繊維)の糸を使用し、展示を目的とした作品や半幅帯・マフラーといった使用を目的とした作品、小作品冊子を制作する。本実習では糸を織るだけでなく、糸を染める・糸を紡ぐ方法も学習する。 また、上記の作品課題の他、織りの工程理解のため前期・後期授業の各最終日に実習ノートを提出してもらう。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
各自作業に適した服装で授業に参加すること。糸の染色作業時は作業着・作業靴を着用のこと。 課題制作のために必要な準備物や実習ノートの制作は、授業時間外におこなうこと。 (実習ノート制作についての詳細は、初回授業時に説明)	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出作品	60
提出ノート	15
授業に取り組む姿勢	25

教科書			
教科書1	授業課題に応じて適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
授業内容は、授業進行状況により変更する場合があります。
教員実務経験
テキスタイルアート作品を制作する作家が指導をおこなう。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業概要について説明 織物について(三原組織)説明 織り工程の説明 平織・組織織のサンプル制作 課題1:「縞模様」 課題説明 プランニング
2	課題1:「縞模様」 直接染料による糸染め 織物計画 たて糸準備
3	課題1:「縞模様」 たて糸、よこ糸準備 織り 課題2:「半幅帯」 課題説明 プランニング
4	課題1:「縞模様」 織り～作品完成 合評 課題2:「半幅帯」 プランニング確認 織物計画
5	課題2:「半幅帯」 たて糸準備

6	課題2:「半幅帯」 たて糸準備 織り
7	課題2:「半幅帯」 織り 課題3:「綴織」 課題説明
8	課題2:「半幅帯」 織り～作品完成 仕上げ方法説明 合評 課題3:「綴織」 プランニング確認
9	課題3:「綴織」 織物計画 たて糸準備 酸性染料による糸染め
10	課題3:「綴織」 たて糸準備 織り
11	課題3:「綴織」 織り
12	課題3:「綴織」 織り
13	課題3:「綴織」 織り
14	課題3:「綴織」 織り
15	課題3:「綴織」 織り～作品完成 仕上げ方法説明 合評 前期実習ノート提出
16	課題4:「カード織り」 課題説明 たて糸準備 織り～作品完成 合評
17	課題5:「緋織」 課題説明

	織物計画 たて糸の糸染め
18	課題5:「絣織」 たて糸準備 よこ糸の絣括り
19	課題5:「絣織」 よこ糸の絣括り よこ糸の糸染め たて糸準備
20	課題5:「絣織」 よこ糸の絣ほどき 織り
21	課題5:「絣織」 織り
22	課題5:「絣織」 織り
23	課題5:「絣織」 織り～作品完成 仕上げ方法説明 合評
24	課題6:「紡ぎ糸のマフラー」 課題説明 織物計画 たて糸準備 よこ糸作り(糸紡ぎ)説明 よこ糸作り(糸紡ぎ)作業
25	課題6:「紡ぎ糸のマフラー」 織り方指導 織り作業～織り終わり 仕上げ方法説明
26	課題6:「紡ぎ糸のマフラー」 縮絨作業～作品完成 合評 最終課題:「小作品冊子」 課題説明 作品プランニング 制作方法指導
27	最終課題:「小作品冊子」 制作準備
28	最終課題:「小作品冊子」

	各自制作
29	最終課題:「小作品冊子」 各自制作
30	最終課題:「小作品冊子」 各自制作～作品完成 作品仕上げ 冊子制作～完成 合評 後期実習ノート提出

科目名	文様論	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023 年度 後期	形態	講義		
教員名	齋藤 朋子				
クラス名					

授業目的と到達目標					
<p>東洋の工芸に施された文様を取り上げ、その流行・変遷・衰退を知り、文様を創造した人々・求めた人々の美意識、異文化の影響、こめられた意味を探る。工芸各分野の技法の発展と文様の変化の関係を学ぶ。文様を手懸りに、作品を観て感じ、考察したことを自分のことばで表現すること、日本の工芸史への理解を深めることを目標とする。</p>					
授業概要					
<p>日本の文様を理解する上で、異国、とりわけ中国からの影響は見逃せない。前半は中国の古代～唐時代の文様、さらに遠く西方に由来する文様が中心となる。後半は異国風文様の和様化、日本独自の文様を取り上げ、近世の西洋との交流にも触れる。また、各時代において、工芸技術の発展状況が、異国からの舶載品の国産化や文様の受容に大きく影響することを知るため、作品の細部写真を用いて比較、考察、問いかけをしていく。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>まずは、UNIPA で配信する授業資料を講義前に読んでおくこと(約 1 時間)。授業後にミニレポートを課す。教室での提出回と、次回授業前日までに UNIPA での提出回を設け(約 1 時間)、課題へのフィードバックは次回の授業のはじめに行う。詳細は初回に説明する。授業時に自主学習に役立つように参考図書や作品・展覧会の情報を示す。講義だけではなく、何よりも実作品を観る機会を持つことが望ましい。状況が許さなければ、図書館の利用や博物館のデジタル化された資料を検索して活用するなどの工夫が可能である。</p>					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
授業後ミニレポート課題	50
学期末レポート	40
平常点(授業・課題への取組み、質問への回答)	10

教科書			
教科書 1	各回 UNIPA で授業資料を配信する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	漆芸品の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小松大秀・加藤寛

参考書名2	やきものの鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	矢部良明編
参考書名3	日本・中国の文様事典		
出版社名	日本・中国の文様事典	著者名	早坂優子
参考書名4	染と織の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小笠原小枝
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	美術館の学芸員としての経験から、実際に手に取り観察してきた館蔵品や実見の機会を得た作品などを題材に解説し、作品や展覧会情報も提供していく。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義予定と課題・評価について 古代日本の文様 世界どの地域でも共通の文様 / 仏教伝来以前の日本の文様 / 我が国固有の文様 / 古墳時代の墳墓の副葬品 / 古代日本の造形の特質
2	古代中国の文様(1)青銅器の文様と変遷 古代の祭祀 / 古代青銅器の特色と技法 / 青銅祭器の役割と文様の変遷 / 西域文様の流入
3	古代中国の文様(2)神仙世界の文様 青銅器の成形技法と装飾技法 / 漢時代の主要な文様 / 墳墓出土の帛画にみる神話伝説の世界 / 銅鏡文様の変遷と神仙の世界
4	唐草文の世界 ～文様の伝播と変遷～ 古代文明にあらわれる植物文様 / 唐草文の起源と伝播 / 中国における唐草文の変遷 / 朝鮮半島・日本への伝播
5	楽園への憧れと花鳥文様 ～ササン朝ペルシアの文様の東方伝播～ 唐帝国の繁栄とペルシア文化の流入 / ペルシアの金属工芸 / パラダイス(楽園)の思想 / 唐時代の金銀器—技法と文様 / 隋・唐時代の鏡の文様
6	シルクロードと染織品の文様 染織品に見る技術と文様の変遷 / シルクロードによる絹織物と織物技術の伝播 / 法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様—唐風から和風へ
7	有職文様・家紋について 装いの変遷 / 上代製の文様—唐風から和風へ / 有職文様 / 家紋—日本独自の紋章文化
8	漆芸品にみる唐風文様の和様化



	「美しいかたち」についてリサーチ
14	造形演習「美しいかたち」3 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
15	造形演習「美しいかたち」4 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
16	造形演習「美しいかたち」5 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」7 石膏モデルの完成→合評
19	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／リサーチ
20	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／「企画立案」
21	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング「企画コンペ」
23	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5 量産を前提として「デザイン→製図」
24	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング(マケット)作成準備
28	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル(マケット)製作作業
29	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル(マケット)製作作業
30	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」12 最終提出／講評会／授業総括

科目名	製図実習【18以前生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。</p> <p>これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。</p>	
授業概要	
<p>前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。</p> <p>後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書			
教科書1	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<a href="http://masaab.sakura.ne.jp">http://masaab.sakura.ne.jp</a>
特記事項
教員実務経験
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)
2	「練習問題」三面図の理解
3	練習問題の回答「線の練習1」T 定規の使い方、実線、破線
4	「線の練習2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線
7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りや R の指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鋳金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成 次課題「中空構造の自由形態」課題説明

16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング1
21	キャラクター人形レンダリング2 「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	工芸製図	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	尾原 久永、○高橋 亜希				
クラス名	【19生対象】				

授業目的と到達目標	
(前期 尾原)	デザイナーとして必要な製図の基礎知識を習得し、デジタルツールを応用出来るスキルを養う。
(後期 高橋)	テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターンの知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。
授業概要	
【対面授業】	
(前期 尾原)	デザイン系ソフトを使った製図の基本からスタートし、部屋空間をレイアウトする平面図作成から簡単なパース図作成までを行う。
(後期 高橋)	着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
受講、実習内容がより理解・習得できるように自己啓発すること。また、遅刻・私語は慎むこと。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
提出作品	80%
制作構想(平常授業態度、発表など含む)	20%

教科書			
教科書1	必要に応じてプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献	
参考書名1	

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
授業内容は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。
教員実務経験
(前期 尾原) デザイン制作会社を経営する教員が、実務経験を基に CG を活用したデザイン制作に必要な製図知識の指導をする。 (後期 高橋) 大阪市立クラフトパーク 織物指導員 合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	前期 立体の表現方法、製図と CAD に関する基本的な説明。 デザイン系ソフト:Illustrator の説明。基本操作の実技。
2	点・線・面の作図練習(基礎)
3	点・線・面の作図練習(応用)
4	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(1) T シャツの採寸～作図
5	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(2) T シャツの採寸～作図
6	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(3) T シャツの採寸～作図
7	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(1) 面処理の習得
8	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(2) 面処理の習得と立体表現
9	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(3) 平面図と立面図の制作

10	住空間の平面図作成(1) 平面図の制作
11	住空間の平面図作成(2) 平面図と立面図の制作
12	製図実習(1) 居住空間における実寸把握作図習得
13	製図実習(2) 居住空間における実寸把握作図習得
14	製図実習(3) 居住空間における実寸把握作図習得
15	合評・総評
16	後期 着物についての歴史的考察(スライドを中心として)
17	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
18	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
19	袖を縫うことから始める
20	身頃を縫う
21	身頃を縫う
22	脇を縫う
23	脇を縫う
24	衤を縫う
25	衤を縫う
26	衤をつける
27	袖をつける
28	細部の仕上げ 着物のたたみ方を学ぶ 小下絵を描く(自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く)
29	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
30	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション 合評

科目名	工芸製図【19以降生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	井上 剛				
クラス名					

授業目的と到達目標					
<p>第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。</p> <p>正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】</p> <p>製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝える」ための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することで双方の立場にたって製図に対する理解を深める。</p> <p>教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各種製図法(投影法)についての予習					

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
実習課題	80
習熟と理解	10
その他の提出物	10

教科書			
教科書1	「製図実習」セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明
2	製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解
3	製図を用いた製作の実例レクチャー
4	製図の基礎1 フリーハンド製図の練習
5	製図の基礎2 第三角法の理解
6	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング
7	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」1 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
8	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」2 フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
9	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」3 製図作業
10	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」4 製図作業
11	マグカップの製図「現物の実測～作図まで」5 図面完成→合評
12	造形演習「美しいかたち」1 「美しいかたち」について講義
13	造形演習「美しいかたち」2

	「美しいかたち」についてリサーチ
14	造形演習「美しいかたち」3 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
15	造形演習「美しいかたち」4 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
16	造形演習「美しいかたち」5 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」7 石膏モデルの完成→合評
19	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／リサーチ
20	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／「企画立案」
21	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング「企画コンペ」
23	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5 量産を前提として「デザイン→製図」
24	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング(マケット)作成準備
28	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル(マケット)製作作業
29	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル(マケット)製作作業
30	プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」12 最終提出／講評会／授業総括

科目名	工芸製図【19以降生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名	【19生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。</p> <p>これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。</p>	
授業概要	
<p>前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。</p> <p>後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書			
教科書1	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	

教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
<a href="http://masaab.sakura.ne.jp">http://masaab.sakura.ne.jp</a>
特記事項
教員実務経験
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)
2	「練習問題」三面図の理解
3	練習問題の回答「線の練習1」T 定規の使い方、実線、破線
4	「線の練習2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線
7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りやRの指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鋳金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成 次課題「中空構造の自由形態」課題説明

16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング1
21	キャラクター人形レンダリング2 「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	工芸製図【19以降生対象】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 通年	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					

授業目的と到達目標	
アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。 基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。	
授業概要	
基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。 また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。 これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
課題提出	80
受講姿勢	20

教科書			
教科書1	「製図実習」セラミックコース		
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL	[田中雅文 Official site, <a href="http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html">http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html</a> ]		
特記事項	陶磁器制作を専門とすることで素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。		
教員実務経験	陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。		

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方) 製図用具の種類と使用法
3	図面の大きさと様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする
7	湯呑みの製図 4 製図作業
8	湯呑みの製図 5 製図作業
9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1面型鑄込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1面型鑄込み カップの制作 2 図面作成
23	1面型鑄込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1面型鑄込み カップの制作 4 石膏原型制作

25	1 面型鑄込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1 面型鑄込み カップの制作 6 使用型制作
27	1 面型鑄込み カップの制作 7 使用型制作
28	1 面型鑄込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1 面型鑄込み カップの制作 9 鑄込み作業
30	1 面型鑄込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	工芸科指導法Ⅱ【19以降生】	年次	カリキュラムにより異なります	単位数	2
授業期間	2023年度 後期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					

授業目的と到達目標	
工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。	
授業概要	
対面授業 生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。	

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
学年末試験、提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価	100

教科書			
教科書1	高等学校芸術科工芸1・教科書		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松敏明 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
参考書名2	高等学校芸術科工芸1・教授資料		
出版社名	日本文教出版	著者名	小松俊明 他

